

音楽科学習指導案

令和2年12月15日(水) 第5学年3組(第2音楽室) 指導者 稲森 稚明

【題材】 思いを表現に生かそう (『「カルメン」 第一幕への前奏曲』)

考察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質能力	・ 曲想の変化と音の重なり合う響きとの関わりについての理解 ・ 曲想の変化と音の重なり合う響きを生かして演奏する技能	・ 曲想の変化と音の重なり合う響きとの関わりを生かした表現について、思いや意図をもったり、味わいながら曲全体を聴いたりする力	・ 曲想の変化や音の重なり合う響きを味わいながら、音を合わせて演奏したり、曲全体を聴いたりする学習に主体的に取り組もうとする態度
児童の実態	・ 音の重なることで生まれる様々な響きや曲想についての理解や、旋律の役割を生かした演奏ができるようになってきている。 ・ 曲想の変化と音の重なり合う響きについての理解や、それらを生かした演奏することは難しい。	・ 音の重ね方を工夫して演奏したり、音の重なりを味わいながら曲全体を聴いたりできるようになってきている。 ・ 曲想の変化に合わせて、音の重ね方を工夫した演奏をしたり、曲想の変化と音の重ね方を味わって聴けていない。	・ 音の重なり合う響きや重ね方に関心をもって表現したり、音の重なりが生み出す響きのよさを聴いたりする学習に主体的に取り組もうとしてきている。 ・ 音の重なり合う響きを生かして曲想の変化を表現したり聴いたりしようとすることは難しい。
価値	・ オペラの曲は場面の変化を感じ取ったり複数の楽器を聴き取ったりできる。オペラを題材にして聴いたり演奏したりすることは、曲想の変化と音の重なり合う響きの関わりについての理解を深めることができる。また、それらを生かして演奏する技能を高めることができる。	・ 学級の目指す音楽表現を、曲想の変化や音の重なりを手掛かりにして考えることは、楽器の役割を基に音の重なりを工夫したいという思いや意図をもったり膨らませたりすることができる。 ・ 場面ごとに取り出し、比較鑑賞することは、曲想の変化と音の重なりをつなぐりを味わいながら聴く力を高めることができる。	・ 管弦楽の演奏を鑑賞した後に表現する活動を行うことは、曲想の変化や音の重なり合う響きに関心を持ち、それらを生かして演奏したり聴いたりしようとする態度を育てられる。 ・ まとめの学習として、保護者へ発表することは、主体的に学習に取り組む態度を育てられる。
見方・考え方	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音の重なりとその働きの視点で捉え、イメージや感情とつなげて考えること		
今後の学習	6年「旋律の重なり合い」で、音色や旋律の特徴を聴き取り、重なり合う響きの美しさを生かしながら、表現する学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	曲想の変化と音の重なり合う響きとの関わりを理解して曲全体を味わって聴いたり，曲想の変化と旋律の重なり合う響きとの関わりを生かして演奏したりしている。				
評価 規準	(①知 ・ 技) 曲想の変化と音の重なり合う響きとの関わりについての理解し，それらを生かして演奏する。 (②思・判・表) 曲想の変化と音の重なり合う響き関わりを生かした表現について，思いや意図をもったり，味わいながら曲全体を聴いたりする。 (③主体的態度) 曲想の変化や音の重なり合う響きを味わいながら，音を合わせて演奏したり，曲全体を聴いたりする学習に主体的に取り組もうとしている。				
教材	ア…【鑑】「カルメン」第一幕への前奏曲 ビゼー 作曲 イ…「カルメン」第一幕への前奏曲 ビゼー 作曲 山下国俊 編曲 ハ長調・変イ長調 4分の2拍子				
過程	時間	配分	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つか お	2	ア	○『カルメン第一幕への前奏曲』を聴く。 (本時2／2)	○曲想の変化と音の重なり合う響きとの関わりに気付けるように，「楽器」と「旋律の特徴」に着目して[A]・[B]・[C]の場面ごとに比較鑑賞し，それらについて気付いたことを共有する時間を設定する。	◇曲想の変化をリズムや音色などと結び付けて発言したり記述したりしている。 ＜発言・学習プリント①②③＞
	1		○『カルメン第一幕への前奏曲』を聴いたり，学習発表会を鑑賞したりして「思いを表現に生かそう」という学習のめあてをつかむ。	○曲のイメージを広げ，イメージに合う音楽表現の工夫を考えることができるように，昨年度の5年生の学習発表会の動画を鑑賞する時間を設定する。	◇曲について思いや意図をもち，伝えたり記述したりしている。 ＜発言・学習プリント②＞
追 求 す る	1	イ	○『「カルメン」第Ⅰ幕への前奏曲』のそれぞれの旋律を演奏する。	○自分の楽器の旋律を演奏する時間を十分に確保できるように，階名の示してある楽譜を用意する。	◇旋律を正しい音程で演奏している。 ＜表現①＞
	2		○『「カルメン」第Ⅰ幕への前奏曲』の前半を合奏する。	○自分の旋律と友達の旋律との重なりに気付けるように，旋律の特徴を基に二～五つの旋律を抜き出して合奏する機会を設定する。	◇音の重なりを意識しながら，音色や強弱などの音楽表現の工夫を考えて，楽譜に記述したり発言したりしている。 ＜発言・楽譜②＞
	2		○『「カルメン」第Ⅰ幕への前奏曲』の後半を演奏する。	○前半との曲想の変化に気付けるように，[A]・[B]と[C]を比較しながら聴いたり合奏したりする機会を設定する。	◇曲想の変化を意識しながら，音色や強弱などの音楽表現の工夫を考えて，楽譜に記述したり発言したりしている。 ＜発言・楽譜②＞
	1		○『「カルメン」第Ⅰ幕への前奏曲』を全体を通して合奏する。	○曲想の変化と音の重なりが視覚的に分かるように，これまでの工夫を書き込んだ拡大総譜を提示する。	◇曲想の変化と音の重なり合う響きとの関わりに気づき，音色や強弱などの工夫を生かして音を合わせて演奏している。 ＜表現①＞
・ま 生と かめ する	1		○『「カルメン」第Ⅰ幕への前奏曲』を発表する。	○曲想の変化と旋律の重なり合う響きとの関わりを生かして演奏できるようになったことを実感できるように，保護者へ向けて発表する機会を設定する。	◇曲想の変化と旋律の重なり合う響きとの関わりを理解し，それらを生かして，思いを込めて表現している。 ＜表現①②③＞

本時の学習（2／10時間目）

ねらい 『「カルメン」第一幕への前奏曲』の場面[A]と[B]の比較鑑賞し、曲想の変化する理由を話し合うことを繰り返すことを通して、曲想の変化と音の重なりに関わりに気付くことができる。

評価項目 曲想の変化をリズムや音色などと結び付けて発言したり記述したりしている。＜発言・学習プリント①②③＞

学習活動と児童の意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 『「カルメン」第一幕への前奏曲』は、場面[A]、[B]、[C]と曲想が変わっていったよ。曲のイメージも明るい感じ落ち着く感じと変わっていったな。 - 曲想の変化する理由が友達と似ているところと違うところがあるな。『「カルメン」第一幕への前奏曲』の曲想が変わる理由は何だろうか。（課題意識）	○前時に感じた『「カルメン」第一幕への前奏曲』の曲想の変化について想起できるように、場面ごとに思い浮かべた曲のイメージとその理由について記述したタブレット内のカードを読み返すよう促す。 ○楽器の音色や旋律の特徴を基に曲想の変化する理由を考えるとという本時の見通しをもてるように、自分の曲のイメージと、その理由を曲と照らしながら聴く時間を設定し、共通点や相違点を問いかける。
めあて：『「カルメン」第一幕への前奏曲』の場面[A]から[B]の曲想が変わる理由を考えよう	
2 それぞれの考えた曲想の変化する理由を共有しながら、曲を聴く。 - ぼくは、メロディーを演奏している楽器の音が関係ある気がしたよ。ヴァイオリンに気を付けて聴いてみようかな。ヴァイオリンのリズムに気を付けて聴いたら、場面[A]は速いリズムで細かく刻む感じがしたけど、場面[B]では少し音が長くなっている気がするな。 - 同じフルートの、強弱に気を付けて聴いた友達は、最初はフォルテッシモだけど、場面[B]からピアノになっていると気付いているな。強弱も関係していそうだな。 - ぼくとは違う楽器のリズムに気を付けて聴いた友達に話を聞いたら、トランペットは場面[A]では拍を刻んでいたけど、場面[B]ではほとんどお休みだと言っているよ。ホルンやシンバルも同じみたいだな。 - 場面[A]から[B]へ曲想が変化するのは、演奏している楽器の数が減ったり、強弱がフォルテからピアノになったりしているからなのだな。（課題を解決した意識）	○たくさんの重なり合う音の中から、曲想の変化する理由となる音楽を形づくっている要素を聴き取れるように、着目する楽器と旋律の特徴を、総譜の中から1つ決めるよう伝える。 ○友達の着目した楽器と旋律の特徴を比較できるように、カードにそれらを記述し、ロイロノートへ提出するよう促す。 ○複数の楽器の旋律の特徴に気付けるように、同じ楽器で異なる旋律の特徴に着目している友達と、気付いたことを言葉や楽譜で比較するよう促す。 ○曲想の変化と音の重なりとが関連していることに気付けるように、異なる楽器の友達と、気付いたことを言葉や楽譜で比較するよう促す。 ○気付いたことを、音や音楽を基に適宜確認することができるように、伝え合う際には『「カルメン」第一幕への前奏曲』を流しておく。 ○曲想の変化には、楽器の音の重なりや、強弱、リズムなどが関係していることに気付けるように、共有して新たに分かったことを問いかける。
3 本時の学習の振り返りをする。 場面[A]から[B]へ曲想が変化する理由が分かったよ。次は場面[B]から[C]へと曲想が変化する理由を考えたいな。	○様々な楽器やその楽器の旋律の特徴に気付けたことを実感できるように、学習プリントに場面[A]から[B]へ曲想が変化する理由をまとめ、それを基に再度聴くよう促す。

授業の振り返り

※授業の様子は、本校HPでも紹介しています。

【教育研究→令和2年度提案・部内授業の様子】

機器	タブレット（1人1台）、大型モニター
使用アプリ	ロイロノート
機能等	提出箱（比較）

○実際の授業の流れと児童の様子

【導入】 本時の導入において、児童は、前時に記入した曲を聴いて思い浮かべたイメージとその理由を書いたカードを振り返り、『「カルメン」第一幕への前奏曲』は曲想が次々と変化していく曲であることを想起した。そして、そのカードを、ロイロノートを活用して比較し、曲想が変化すると感じた理由が人によって違うことに気付き、聴きながら確かめてみたいという思いをもった。そして、本時では、場面[A]から[B]へと曲想が変化する理由を明らかにしたいという課題意識をもった。

【展開】 児童は、自分が着目して聴く「楽器（上段）」と「旋律の特徴（音楽を形づくっている要素）（下段）」を決めた。そして、総譜の中の自分の楽器の旋律を追いつながりながら、気付いたことを楽譜に記入していった。ある児童は、「ヴァイオリン」の「リズム」に着目して聴き、最初は速いリズムで刻んでいることに気付いた。その総譜を、自分が着目して聴いたカードと共に、提出箱へ入れ、友達の気付いたことと比較を行った。最初に、同じ楽器の友達の記述した楽譜を比較しながら曲を聴いたその児童は、友達の楽譜を見て、自分とは違う箇所のリズムの特徴に気付いている友達の考えを知った。そして、友達に詳しく話を聞きに行き、場面[A]ははねている感じだが、場面[B]から落ち着く感じになっていることに気付き、楽譜に付足しをし

フルート	ヴァイオリン
リズム	リズム
トランペット	トランペット
リズム者	音色・リズム

<提出されたカード>



<気付いたことを

楽譜を基に伝え合う様子>

た。同じように児童は、同じ楽器や、異なる楽器の友達の楽譜を比較しながら曲を聴いたり、友達の考えを聞いたりしながら、同じようなリズムを演奏している楽器が複数あることや、それぞれの楽器が違う旋律を演奏している部分があることなどに気付いていた。これは、ICTを用いて全員の着目した楽器を一覧にしたことにより、自分が比較したい「楽器」や「旋律の特徴」がを見つけやすくなり、自他の総譜への記述の共通点や相違点を、その場で確認しながら聴くことができたため、新たな聴き方やそのきっかけに気付いた姿であり、聴き方が深まった姿といえる。一方で、友達の記述した楽譜をみることで満足し、内容について友達に詳しく聴く必要感を感じられずに、友達に聞きにいかない児童もいた。

以上のように考えを伝え合う活動を通して、曲を聴いたり、気付いたことを共有する中で、場面[A]から[B]へと曲想が変化した理由は、楽器の数が減ったり、リズムや強弱が変化したためだということに気付いた。

【終末】 友達と考えを共有したり繰り返して聴いたりした中で、気付いたことを基に、場面[A]から[B]に曲想が変化する理由をまとめた。そして、次時では、続きのCの部分へと曲想が変化する理由を考えたいという思いをもった。

イメージとその理由		
A歩いている わんわん どきどき ありあかるさ	B森の中 家の中 どきどき さびしさが さびしさが	Cおどろき ありあかるさ

<初発の感想（上）と

活動を通して深まった感想（下）>

○授業改善に向けて

・友達の曲の聴き方を知るためには、感じ取ったことや聴き取ったことを伝え合ったり、伝え合った後に、聴く時間を確保したりする必要がある。友達の聴き方を詳しく知る必要感が生まれるように、グループで協力して共通の課題を解決する学習や、感じ取ったことや聴き取ったことの根拠を伝え合う機会を設定していく必要がある。